タイ北部ピサノローク県における環境保全型農業の推進

NPO法人 環境修復保全機構

特定非営利活動法人 環境修復保全機構
〒195-0064 東京都町田市小野路町 2987-1
http://www.erecon.jp/
環境保護と農業発展の両立をテーマに、現地農家や小学生・先生を対象に環境教育や啓蒙活動を行う。

❶実習を交えた授業には、6校・166人の子どもたちと先生が参加した
❷ニームや唐辛子、生姜など身近なものを使った虫よけ剤（生物起源防虫液）づくり

首都バンコクから北へ約300キロのところにあるピサノローク県。田園風景が広がる郊外のバラカン地区では、稲作を中心にサトウキビ、トウモロコシなどが栽培されています。

この地域では近年、稲作から畑作への転換が進み、化学肥料や農薬を使用する農家が急速に拡大。また、化学肥料や農薬の価格が高騰したことで、農家の経営が圧迫されています。そのため、バラカン地区では今、身近で手に入る物を使った、農薬にたよらない安価で健康にも安心な野菜の育て方が、地元の農家だけではなく、小学生たちにも勧められています。

小学生たちは、堆肥と虫除け剤（生物起源防虫液）のつくり方を授業で習います。堆肥は学校にもうけられた堆肥槽に子どもたちが家庭から生ごみを持ちよって、ワラやもみ殻、家畜の糞尿などを混ぜてつくられます。また、虫よけ剤は熱帯地方に広く自生するニームの葉や、唐辛子、生姜などを混ぜてつくられます。

子どもたちは授業でそれらを学び、学校の菜園でのトウモロコシ栽培で実際に使用します。子どもたちの関心をより高めるため、周辺地域の6校で学校対抗のトウモロコシ栽培コンテストも開催されます。

「コンテスト形式にしたことで、子どもたちも頑張りがいがあって、堆肥の使用・未使用でトウモロコシの出来ばえを比較したり、詳細に栽培の様子を日誌に付けたりする学校もありました。化学肥料を使わなくても身近なもので野菜が育てられる。小さい時からのこうした経験が、この地域の将来にとって大切だと思います」（代表理事 三原真智人さん）

自然の力を楽しみながら知ることによって、結果的には農薬にたよらない栽培へと結びついていく環境教育。この経験から子どもたちが感じとった自然への意識が、バラカン地区の農業を将来的に支えていくことになるのではないでしょうか。

農薬にたよらない野菜づくりへ 子どもたちの体験学習

堆肥づくりを楽しむ子どもたち